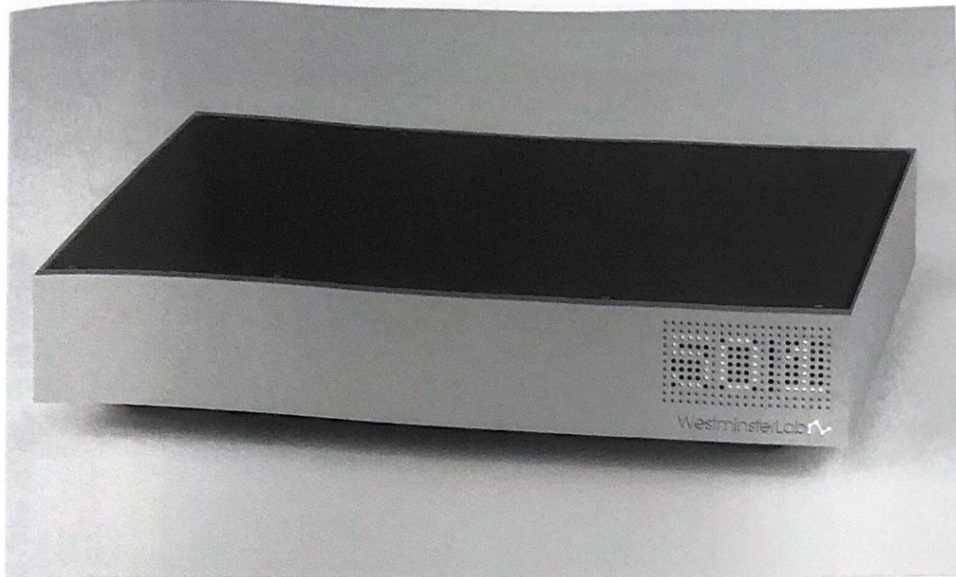


固定抵抗切替式アッテネーターを搭載する、ウェストミンスターラボ初のプリアンプ 落ち着きがあり、濃密で肌理細かく実直な描写

プリアンプ

三浦孝仁



私がウェストミンスターラボの製品を知ったのは、電源部が別筐体のL.U.M.I.N製ネットワークプレーヤーの専用伝送ケーブルから。標準品と聴き比べて音質差に驚いた記憶がある。主宰者は、デザイナーのアンガス・ルング氏。建築を学んでいた英国留学中に友人とロンドンでウェストミンスターラボを立ち上げ、開発した高音質USBケーブルで名を知られるようになった。卒業後は帰国して精力的に製品開発を行ない、現在は香港の荃湾区に予約制のギヤラリーを構えているようだ。

QUEST(クエスト)は同社初のプリアンプ。すでに製品化したRei(零)パワーアンプ(日本市場には未紹介)用にデザインされている、バランス伝送のラインレベル専用プリアンプである。音量調整は固定抵抗器をリレーで切り替える64段階のアッテネーターによる。フロントパネルには音量ステップと入力の数字が並んで表示され、スリムな専用リモコンで操作を行なう。

電源部にはサイズの異なる2基のトイダル型トランスが使われている。

そのひとつは非オーディオセクション専用という。ウェストミンスターラボでは、本機を完全デュアルモノ構成と謳っている。試験機はカーボンファイバーの板材で回路基板の要所を覆った、拡張カーボンファイバーオプション(30万円)を加えた仕様だ。本誌試験室で使用したリファレンス機材は、アキユフェーズのDP950+DC950を送り出しに、同A250パワーアンプとB&W800D3。

手寫葵「月のぬくもり」は、落ち着きのあつ濃密な音の提示だ。奥行き感も不足なく、声色が肌理細かく質感が高い。ピアノの打音も重心が低く音色が安定している。角田健一ビッグバンドの最新SACDでは、無観客ライブらしい豊かなホールトーンと、適度に重さが乗った迫力のジャズを楽しませた。音像が前に迫るのではなく、奥にも響きが広がりがステージの雰囲気を目く醸し出している。デジタルファイルで聴いた河村尚子のピアノは、骨太の音像描写で実直な音という印象だった。

音調バランスを含めて実力の高さを感じさせる。純正組合せの音を聴いてみたい、注目すべきプリアンプである。

ウェストミンスターラボ Quest ¥3,300,000

●入力感度/インピーダンス:6V/51kΩ●寸法/重量:W470×H110×D392mm/13.2kg●備考:写真・価格はオプションの拡張カーボンファイバーシールドありの状態、カーボンファイバーシールドなし(¥3,000,000)あり。オプションでRCA入力ボード(¥200,000)あり。バランス入出力HOT=2番ピン●問合せ先:精利ブライトン ☎03(6869)0516